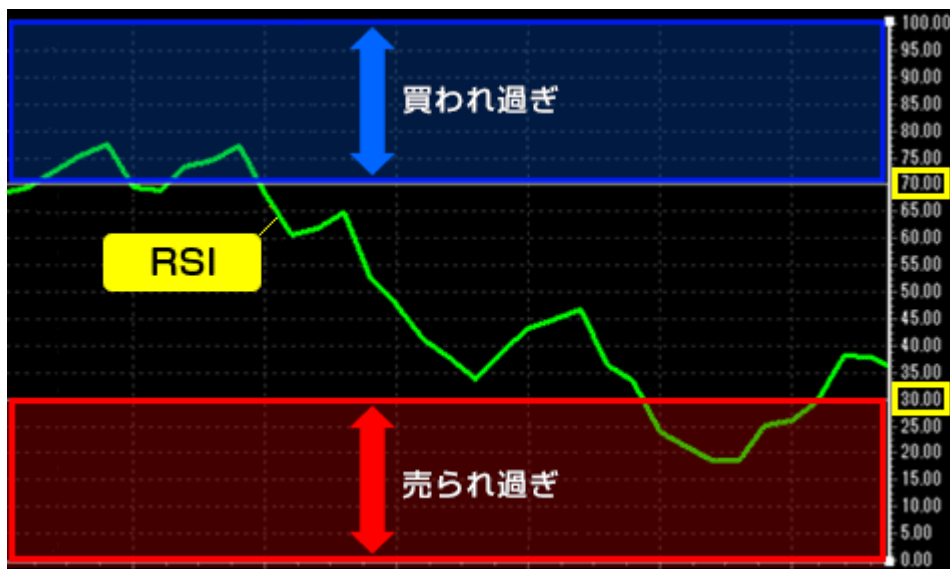


RSIとは

RSIとは、過去のある一定期間（基本的には14日間）の変動幅からみて、現在どれくらいレートが上下しているのかを0%~100%で表す指標です。100%に近いほど買われすぎ、0%に近いほど売られすぎを示します。
 一般的に、70%以上になると「買われすぎ」とされ、30%以下に入ると「売られすぎ」と判断されます。



基本の見方

- ◎ RSIが70%以上 → 売り
- ◎ RSIが30%以下 → 買い



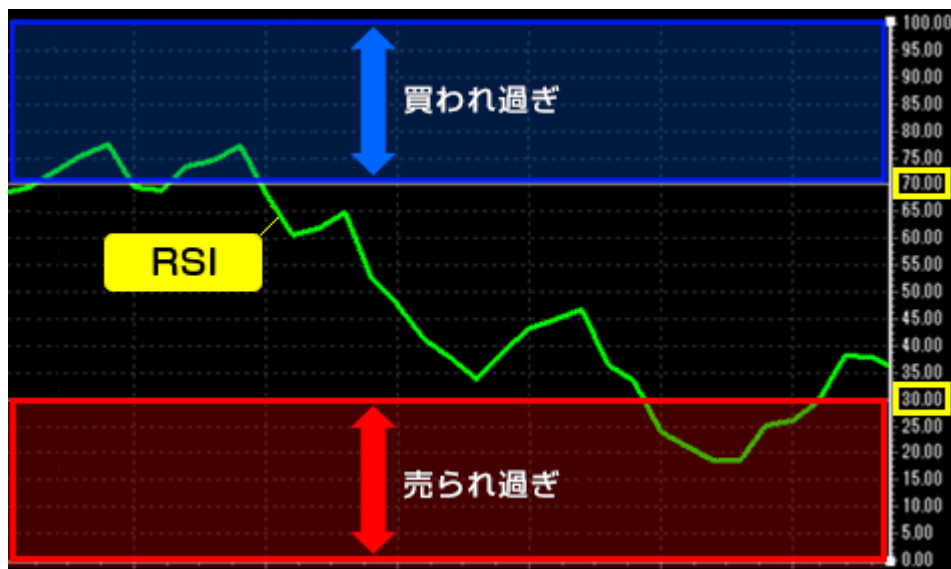
上図では、Aの位置で売り、Bでは買いとなります。RSIで売られすぎ、買われすぎと判断する水準は任意の水準に設定していただけます。

例：「20%で買い、80%で売り」や「40%で買い、60%で売り」等

RSIとは

RSIとは、過去のある一定期間（基本的には14日間）の変動幅からみて、現在どれくらいレートが上下しているのかを0%~100%で表す指標です。100%に近いほど買われすぎ、0%に近いほど売られすぎを示します。

一般的に、70%以上になると「買われすぎ」とされ、30%以下に入ると「売られすぎ」と判断されます。



基本の見方

- ◎ RSIが70%以上 → 売り
- ◎ RSIが30%以下 → 買い



上図では、Aの位置で売り、Bでは買いとなります。RSIで売られすぎ、買われすぎと判断する水準は任意の水準に設定していただけます。

例：「20%で買い、80%で売り」や「40%で買い、60%で売り」等

ダイバージェンス（逆行現象）法則

RSIではダイバージェンス（逆行現象）法則を利用する手法があります。ダイバージェンス（逆行現象）とは、高値圏でレートが上昇しているにもかかわらずRSIが下降している状態、または安値圏で、レートが下降しているにもかかわらずRSIが上昇している状態のことです。ダイバージェンス（逆行現象）が見られた場合は、その後相場が反転する可能性が高いことを示します。

つまり、高値圏、安値圏でRSIの逆行現象＝相場の反転のサインと考えることができます。

- ◎ レートが上昇、RSIが下降 → その後相場が反転し下降していく可能性が高い
- ◎ レートが下降、RSIが上昇 → その後相場が反転して上昇していく可能性が高い

注意点

RSIは横ばいトレンドや、ゆるやかなトレンド相場の際に逆張りでポジションをとる指標としてよく利用されています。一方向に強いトレンドの出ている時にはRSIの逆張りは通用しないので、トレンドの強さにも注目する必要があります。

以下の図を見て下さい。レートが一方向に上昇していて、RSIが70%を上回っても、レートはさらに上昇を続け、RSIは70%の水準で推移していて、RSIが機能していないことが分かります。



算出方法

RSIは、一定期間の値上がり幅の合計を、値上がり幅と値下がり幅の合計で割ることで求められます。

$$RSI = \frac{(X日間の) 値上がり幅}{(X日間の) 値上がり幅 + (X日間の) 値下がり幅} \times 100 (\%)$$